

年間施工棟数 3年後に2万棟めざす

IIピユアパイル工法II

戸建て住宅用地盤補強

普及会
法興
工振

ピユアパイル工法普及振興会(田中啓三代理事、柳田雄治代表理事)は27日、全国の指定施工会社20社を招いて経営者

懇談会を都内のホテルで開催し、販売目標として3年後の同工法の年間施工棟数を2万棟、施工機台数を240台に拡大

し、200億円規模の市場をめざすとした。

同工法は、柱状改良工法に代わる新しい戸建て住宅用地盤補強工法として、テノックスとJB

サポートが共同開発したもの。専用の掘削ロッドを回転させながら支持基盤まで掘削した後、セメントミルクを排出しながら掘削ロッドを引き上げることで、掘削土砂と混じらないセメントミルクのみからなる純粋(ピユア)で品質が安定した柱状体(パイル)を築造する。

従来の柱状改良工法のように、セメント系固材と原位置土を攪拌させる必要がないことから、強度にはらつきがなく、残土も出ず、固まるのが早いといった特徴を持つ。特に、残土処理については、セメントが含ま

れた掘削残土の産業廃棄物が出ないため、環境に優しく、処理コストが不要になるというメリットがある。

10年2月に日本建築総合試験所で性能証明を取得後、11年4月に全国販売(北海道を除く)を開始し、12年10月に無事故で施工実績1000棟を達成した。また、性能証明取得後も杭長や施工対応面積を拡大するなどの技術改良を重ね、12年10月に認証の取得更新を行った。

ピユアパイル工法普及振興会については、テノックスとJBサポートが10年10月に設立。指定施工会社に対して同工法の技術提供や、各種研修などのサポートを行い、同工法の普及や品質維持に努めている。同振興会では現在、指定施工会社20社と協力会社・FC店含め計50社とライセンス契約を結んでおり、登録施工機は96台となっている。今後、目標達成に向けて、施工技術の革新や指定施工会社への営業サポートを強化し、同工法の更なる普及とブランドの拡充に取り組む。